

## 第8章 従業員からみた求める役割に対する評価・現在の満足度と今後の働き方

### 1節 求める役割に対する評価

会社・上司から求められている役割全体を100とした場合、従業員自身がどの程度その役割に答えているかをみると、最も多いのは「71～80」で29.8%である。次いで、「81～90」（22.0%）、「61～70」（16.6%）がこれに続いており、平均すると、79.6の水準になる。こうした傾向を「期待する役割」を知らせる仕組みの状況別にみると、知らせる仕組みが機能している企業の従業員ほど、さらに、「能力・意欲」を勤務先が知る仕組みの状況別にみると、従業員の能力や適性を積極的に把握している企業の従業員ほど、期待する役割に応えている割合が高くなっている。

### 2節 現在の「仕事や働き方」の満足度

現在の「仕事や働き方」の満足度についてみると、満足度が高いのは「職場の人間関係」（「満足」31.7%+「やや満足」51.5%）及び「労働時間・休日」（「満足」37.2%+「やや満足」41.0%）である。次いで、「経験・能力の活用度」（「満足」29.5%+「やや満足」51.2%）と「仕事の内容・やりがい」（「満足」27.7%+「やや満足」52.7%）がこれに続いており、「賃金・収入」（「満足」14.0%+「やや満足」34.9%）が最も満足度が低くなっているが、「仕事・働き方全般を通して」みると、8割弱（「満足」21.6%+「やや満足」57.2%）の従業員が満足している。こうした傾向を継続・雇用者の60歳代前半層の雇用形態別にみると、「継続・正社員」で、「賃金・収入」の満足度が高く、これに対して、「継続・非正社員」で「労働時間・休日」及び「職場の人間関係」の満足度が高くなっている。

「期待する役割」を知らせる仕組みの状況別にみると、第一に、知らせる仕組みが機能している企業の従業員ほど、第二に、管理職への情報提供を積極的に行っている企業の従業員ほど、すべての項目で満足度が高い。さらに、「能力・意欲」を勤務先が知る仕組みの状況別には、従業員の能力や適性を積極的に把握している企業の従業員ほど、「60歳以降の働き方などを相談・支援する」仕組みの導入状況別には、導入している企業の従業員ほど、すべての項目で満足度が高くなっている。

### 3節 今後の働き方

現在の会社での就労希望年齢をみると、「64歳まで」が50.7%、「65歳～69歳」が43.7%、「70歳以上」が4.1%となっている。こうした傾向を継続・雇用者の60歳代前半層の雇用形態別にみると、「継続・正社員」ほど、長く働きたいと考えている者が多くなる。現在の職種別にみると、「生産・運輸・建設等の現業職」で長く（65歳以降）働きたいと考えている者が多く、これに対して、「事務職」で少ない。規模別にみると、小規模企業の従業員ほど、長く（65歳以降）働きたいと考えている者が多くなる。現在の満足度別にみると、満足している従業員ほど、長く（65歳以降）働きたいと考えている者が多くなっている。